

# あさひの日だまり

令和6年 1月26日(金)

NO.35

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

## ～昔から続く地域の文化に触れました～

## 文化を継承している地域の皆様の指導で

今日は、子どもたちが地域の食文化であったり子どもたちが楽しみにしている行事だったりをいくつか経験しましたのでそのことをお伝えします。



左の写真は「繭玉作り」の様子です。18日(木)にさわそこ里山の会の皆様にご来校いただき1年生に繭玉の作り方を教えていただきました。子どもたちは米粉を掌の中で大事そうに転がして、きれいな丸い繭玉を作りました。ミドリやピンクのきれいな色を付けていただいた繭玉は、用意して下さった「ミズキ」に挿しました。教室の後ろに飾られた一人ひとりの繭玉からは作ったその子が心を込めて丸めた様子が見えるようでした。そして、大きかったり、少し個性的な形をしていたりとその子なりの人柄がそこにあらわれているように思えました。お子様の力作の繭玉が玄関などに飾り付けているご家庭もあるかもしれません。



左の写真は19日(金)に同じくさわそこ里山の会のみなさんに5年生が凍りもちの作り方を教わっている様子です。当日はテレビ局も取材に来てくれていて、NHKのニュースで流していただけたようです。私は、同じ上伊那の生まれですが、凍りもちという食べ物を食べたことがありませんでした。昨年そんな話をさわそこの会の方にお話したところ後日できあがった凍りもちを学校まで届けていただけてしまいました。子どもたちと作り方を教わった後ただだけに本当に貴重なものをいただいてしまったと申し訳

ない気持ちになりました。家に持ち帰り冷蔵庫にすぐ入れて、家族と少しずつ味わいました。

指右の写真は、昼食にカレーを用意していただいている写真です。なんと、前日から仕込んでいただいた2日目のカレーです。2日目のカレーはおいしいんです。大鍋に二つ、具たくさんのカレーがいっぱい用意されていました。食材の用意から調理に煮込み、ずいぶん時間と人手がかかっているに違いありません。お金だって相当な金額のはずです。すべてをさわそこ里山の会のみなさんの真心に甘えてしまっています。感謝の気持ちをどんな言葉にしてよいかわかりません。貴重な体験と地域の方の温かみに触れることのできるこんな機会が子どもたちにあることが本当にありがたいです。

## ～来入見一日入学がありました～

## 1年生との交流がありました



24日(水)に来入見の一日入学がありました。保護者の皆様には入学準備に関するお話をさせていただき、その間に来入見の皆さんは1年生の教室で交流学習をしました。左の写真は1年生が来入見の皆さんが脱いだジャンパーを片付けてくれている様子です。一生懸命に来入見の皆さんの顔を、ひざを曲げてのぞき込んで表情をうかがいながら声をかけてくれている1年生の姿が印象的でした。来入見の皆さんが小学校への入学を心待ちにしながらそれぞれの園での生活を送ってくれることを願います。



左の写真は保護者の皆様に学校からのお願いをしている様子です。私の話を時間を少しいただけたのでこんな話をさせていただきました。上手に思いを伝えられたか心配ですがよろしければ目を通していただけたら幸いです。自律「自分で考え判断し行動することができる」というk音について少しお話をさせていただきました。

先生に言われたことをきちんと守り従うことができること。隣の子と同じように勉強やお片付けができること。そういうことも大切なのかもしれません。私は自分で考えて判断することができるような子どもたちを育みたいと思っています。自分でちゃんと考えて自分なりに判断して行動できれば、きっと満足感や充実感を感じられる機会に巡り合えると思うのです。満足感や充実感「楽しい」という思いに結びつきます。そして「学校って楽しい！」って思っていて欲しいと願っています。先生方にも子どもたちにもそんなお話をしています。

ちょっと余談のようなお話ですが、下のようなネットへの投稿がありました。

娘が算数のテストで

「4cmの針金を5mmずつに切ると何本できますか」という問題に

(式)  $4\text{cm} \div 5\text{mm} = 8$

(答) 8本

と解答したところ、式が減点されてた。「この式では答えは8になりません」

と書かれてたけど、単位付けてるから正しいのになあ。

この投稿に対してたくさんの方がご意見を寄せていました。

私もこの娘さんの考え方は本当は正しいのかな、間違えなのかな？と自分なりの理由をつけながら考えました。「正解はどこにあるのだろうか？」と。

そしてふとあることに気が付きました。そしてどきりしました。

子どもをよりよい生き方ができますようにと願って、私は(先生は)いつでも「これが正解！」と答えを準備してから子どもの前に立ってこなかったらどうかと。

もし授業でこの計算を子どもたちに見せたらきっと次のような発言があると思います。

- ・  $\div$ という記号の意味から考えれば、4cmの中に5mmは8つあるのだからこの計算は正解だよ。
- ・ 計算式は単位がそろってはいけなのだからこの計算式を書いたら間違いだよ。
- ・  $4 \div 5$ を計算すると0.8なんだからこういうふうに書くと単位を見落とさないようにしなきゃいけないから計算を間違えちゃうかもしれないよ。
- ・  $40 \div 5 = 8$ が正解だから  $4 \div 5 = 8$ だと満点にはならないような気がするな。

「じゃあどれが正解をみんなで決めようと思うんだ」と問うとどうなるでしょう。

「計算ミスなくすには単位をそろえておいた方がいいからcmかmmにそろえて  $40 \div 5 = 8$ か  $4 \div 0.5 = 8$ にするのが正解です」「いいで一す」こんな流れが想像できます。

「みんな色々なことに気が付いて、色々なことを考えられてなんてすごいんだろう」「みんながどんな風に考えるかを聞き合えて勉強になったね。本当に楽しい授業だったね」ではいけないのでしょうか。自分なりに考えて自分で判断することを最も大切だとするならば授業はそうなるように思います。